

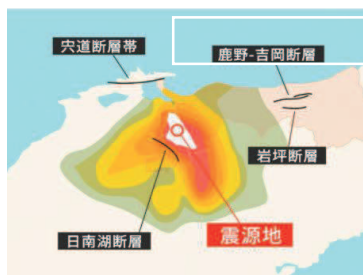
鳥取県西部地震 (2000)

ブース展示 B-219

鳥取県西部地震の概要①

平成12年(2000年)10月6日午後1時30分に「平成12年鳥取県西部地震(※1)」は、震度6強を日野町、境港市で記録し、山間部に発生した地震でありながら大きな被害を出しました。

地震の規模を示すマグニチュードは、平成7年(1995)年に発生した阪神・淡路大震災(※2)と同じマグニチュード7.3でした。県内で、マグニチュード7以上の地震が発生したのは、昭和18年(1943年)の鳥取大地震以来でした。



亡くなられた方はおられませんが、重傷31人、軽傷110人、全壊家屋が394戸、半壊2494戸と、斜面崩壊・落石などによる道路・鉄道の不通箇所を多く出しています。

また、ライフラインの被害も15,000件にも達し、沿岸地域では液状化現象による港湾の破損は地場産業に大きな打撃を与えました。

発生日時	平成12年10月6日午後1時30分	
震央地名	鳥取県米子市 南方約20 km 北緯35度16.4分 東経133度20.9分	
地震の規模	マグニチュード M7.3 (震源の深さ 9 km)	
震度4以上を観測した県内自治体	震度6強	境港市、日野町
	震度6弱	西伯町、会見町、岸本町、日吉津村、淀江町、日南町、江府町、溝口町
	震度5強	米子市
	震度5弱	東郷町、関金町、北条町、大栄町、東伯町、赤碓町、大山町、名和町、中山町
	震度4弱	鳥取市、国府町、岩美町、福部村、郡家町、船岡町、河原町、用瀬町、智頭町、気高町、鹿野町、青谷町、羽合町、三朝町

※1 気象庁が命名。

※2 気象庁は、「兵庫県南部地震」と命名。「阪神・淡路大震災」は被害の基大さに鑑み、内閣が命名。

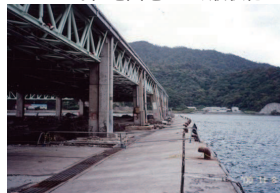
鳥取県西部地震の概要②

この地震による被害は、右記表のほか、公共土木建設、農林水産業施設をはじめとする各種施設にも至り、被害総額は490億円余りに及びました。

都道府県	人的被害		住宅被害		
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部破損
鳥取	0	141	394棟	2494棟	14134棟
その他	0	41	41棟	607棟	4410棟
合計	0	182	435棟	3101棟	18544棟

※消防庁による被害の状況

液状化と中山間地域の被害が多くみられたのが、被害の特徴と言えます。液状化は境港市、米子市を中心に発生し、噴砂や地盤流動が生じました。境港の荷揚場も1メートル余りの側方流動により地盤沈下、上屋の柱が大きく傾斜するなどの被害をうけました。米子市内の住宅地でも砂や水が噴き出し、基礎下の地盤が陥没するという被害を生じました。住宅団地では、液状化により基礎ごと傾いた住宅もありました。



傾斜地や築年数の古い家屋が多く、また高齢化率も3割を超える中山間地域では、屋根土に瓦葺き、土壁、布石基礎、筋交いのない住宅が多く、特に屋根瓦が多くの被害を受けました。また、斜面が多いことから、石垣、擁壁を築くことが多く、住宅は無事でも地盤崩壊が迫ってきているもの、隣家の石垣が崩れて住宅に迫ってきているものもありました。